鉄鋼新聞　令和2年（2020年）11月12日（木曜日）（第三種郵便物認可

川崎電線

ベトナムの売上高4割増へ

ハノイの営業拠点生かし拡販

機器用電線メーカーの川崎電線（本社・川崎市高津区、社長・中村新一氏）は2021年にベトナム市場での売上高を前年比で4割拡大させる。中長期で成長が見込まれるほか新規顧客の開拓余地が大きいベトナムを、同社では戦略市場に位置付けている。10月に首都ハノイに新設した営業拠点を生かし同国全土で拡販を積極化する。製品では銅撚線の販売に注力するほか機器内配線や電源コードなどの売り上げも伸ばす。

同社はベトナムで南部地域の大都市ホーチミンにすでに営業拠点を有している。同国北部に立地する顧客に対する売り上げ増への対応や、現地系などの新規顧客開拓をさらに進めるため、北部地域にあるハノイに営業事務所を新たに開設した。事務所には日本人に加えて現地スタッフも駐在。従前からの日系顧客へのきめ細かな提案に加えて、ベトナム人スタッフを活用した非日系顧客へのよりスムーズな対応で新規ビジネスを積極的に開拓する。今後はホーチミン・ハノイの南北2営業拠点体制で同国全土で既存顧客を的確にフォローしつつ新規顧客開拓にも力を入れる。

注力製品に位置付ける銅撚線は銅線を伸ばして外形を調整し、撚り合わせた電線導体材料。他の電線メーカー向けに外販している。同国ではプレーヤーが少ない錫めっき撚線を武器に拡販する。機器内配線ではベトナム工場が有する小ロット品への高い対応力などを生かし、使い勝手の良さをPRしながら提案する。電源コードは小ロット対応に加えて、高い品質管理能力でさまざまな地域の安全規格に対応可能な強みを活用し供給拡大を狙う。

現地法人カワサキ・ベトナム社の松岡司社長は「来年のベトナム市場での売り上げは前年比で360万ドルの増加を目指しており、コロナ前を上回る水準を確保したい。また収益も拡大させる」と話している。

川崎電線

ベトナム工場で伸線機増設

品質・コスト競争力を向上

川崎電線は2021年6月をめどに、ベトナム工場で伸線機を1基増設する。銅撚線・機器用電線・電源ケーブルの製造に共通して用いるもの。新鋭機の導入によって加工精度を向上させるとともに、コストダウンを図り、製品の競争力を向上。新規ビジネスの開拓を加速させる。投資金額は100万米ドル（約1億円）。

新たに導入するのはマルチ伸線機と呼ばれる設備。銅線を伸ばす伸線、加工度を高める熱処理の焼鈍、製造した銅線を束ねる集合の3工程を一括で行える。工程短縮に効果があるほか、16本の銅線を同時に加工でき非常に能力が高い。稼働すれば銅撚線・機器用電線・電源ケーブルとも供給能力が大幅に高まる。また製品の精度を向上させられることも特長となっている。

同社では新規ビジネスの開拓に注力している。今回の設備増強は新規領域での受注獲得に向けて、製品力・コスト性を高めるための先行投資として位置付けている。ベトナム法人の松岡司社長は「当社では一昨年からベトナム工場の増強計画をスタートしており、今回の投資はその一環。今後はさらなる増強も視野に入れている」と話している。